

次に寄附金では水道の加入金、積立金一、五〇〇、〇〇〇円が計上されているがこれは直接水道会計に入れると起債の許可を得る場合問題となるので一ぱん一般会計に入れて更にそれで水道会計に繰出すという措置をやつてある。

以上歳入を合計して七三、七三八、七四〇円となっております。

次に歳出の関係では議会費において前年度に比べ九、九三六、〇〇〇円の増額となつてゐるがこれは昨年議会事務室が設けられたのでこの職員給与及び需用費、旅費等も増額したものであります。

役場費については前年度に比べ二七、八九三、〇〇〇円の増額となつてゐる。こゝで一丁申し上げますが、職員の関係で従来特別会計の仕事をしてゐるのに一般会計で全費を負担してゐる分があつたので今度は一別し、それ／＼の配置の所へ支出するように組替へてあります。又現在職員数は八四名ありますが、条例の定数は八七名であります。そこで三名不足しますが、予算では八七名分の賞与を計上してあるのが御諒承戴きたい。

消防費では別段新しい事は無く若干内容を充実した程度であります。

土木費については前年度と比較九、六二七、〇〇〇円の増額であります。

本年度土木事業は出来上つた道路の維持改修に留意したいと考え、都市計画については目下日本都市計画協会において基本的な計画を建てゐるので近いうちに出来上ると思う。これも大いに推進してゆきたい。駅前広場についても少しづつ前進してゆく所存であります。

次は教育費であります。前年度より九、〇五九、四〇五円の増額となっております。主なものは学校の問題で、オニ小学校の分校を早急に独立させるため整備してゆくべくはならない。取敢えず一六教室の増築を見込んで五百〇〇円を計上した。又学校の給食場が狭くて不完全であるからこれを改築して充分に使えるように直したのでこの全費を若干計上した。次にオニ小學校は過日の調査委員会が昭和三十三年度に増築出来なかつたかどうかと詰り、昭和三十三年度にどうしてか目録がたまたない。昭和三十四年度で増築すると申し上げた。ところが本日の新聞発表の通り基地交付金が十分増えた。何故増えたかと面々みるに計算の仕方が変り、このようになつた。結果となつた八七、八九〇、〇〇〇円が交付されることになりました。こゝでオニ小學校の増築問題も昭和三十三年度において見込がたまたないと申し上げたが基地交付金の増額分約五百〇四とをさつり、昭和三十三年度予算で受け

入川これに繰越して昭和三十三年度においてオニ小学校の増築工事を成し遂げたいと考えております。

オニ小学校は目下大教室を建築中であるが、整地の関係については土木とタイアップして道路の切込砂利を使ってやりたいと考えており、整地費若干を計上した。

中学校については昭和三十七年度になると生徒が増えるが目下漸くは増築の必要はないのでこの際最初に建てた校舎がいたんできているので補修に塗装をやりたいと考えている。次に社会教育の関係では公民館の建設費として五〇万円を計上した。公民館の考え方には総務委員会において賛同を戴いたが、現在

西多摩郡における諸会合の場合も会場がなく困っているのが西多摩郡の会館と云う考方にすれば補助金も或程度得られるのではないが、北多摩郡では半額補助金ももらった事例もあり、地才事務所長の意見も聞いてみても政治的にあってゆけはよいと思うと云うので先ず西多摩郡の自治会館と云うことで一千人仕入るホールも造ったかどうかと考えている。又過日都内の公民館施設を見学してあるし、何時までにか造るかと云う点では敷地について広い敷地があるので三十三年度一〇万円を計上したが、三十三年度において足りない分を計上し、三十四年度に完

成するようにしたい。

社会又労働施設費については別段新しいものもないので省略いたします。

保健衛生費については三十三年度一〇八八五〇円増となつていますが、これは汚物処理場が不十分であるから完備したものとしたいと思ひ、目下都の衛生局の方に頼んでおり三十三年度において取敢ず一〇〇万円計上した次第であります。

産業全消費については四二二七〇円の増となつていますが、商工業、農業等の関係については、今后産業振興に対する具体的な好い方法があつたかと思ふがまだできない取敢えず動力噴霧機を購入することとした。

財産費、統計調査費、選挙費、公債費では別段改めて説明することもないので省略します。

諸支出金で繰出金の項は先程申上げた通り特別会計が独立採算制の運営から一応国保会計之差支えない程度に抑えて一〇万円繰出し一〇万円を減額した。水道会計の一五〇万円は加入金、積立金と一般会計に入れたので水道会計之繰出すと云う方法をとつた。以上合計したものが七三、七三八七四〇円となります。

次は国保会計でありますが予算総額は八七〇、三三〇四〇円となり、前年度に比

して四五七、六四〇円の増額となっております。又一般会計からは六〇〇円の繰入があり、保険料は若干値上りしている程度で収支のバランスはとれている。一部負担金については昨年一月より窓口室収になり、半額分は被保険者が医師の窓口へ払込み、半額は役場から支払基金に納入している。窓口室収分の未納者もなく順調に運営されております。

水道会計においては予算総額一〇、六八八、五〇〇円であり、前年度に比し入三七二、二〇〇円減となっております。昨年は一千万円の起債を受け、それによって拡張工事も実施した。今年度も何とか起債の運動を強化して努力してゆきたいと考えております。

公益質屋会計については、すまわり完全に独立採算から出ており、別段新しい関係のものもないので、前年度より以上の実績を挙げてゆきたい。

と場合会計については、本年起債を得て何とか冷庫庫を建て、ゆきたいと考えているが、それは起債が決ってから予算に組んでゆきたいと考えている。

以上申述べたことが昭和三十三年度の一般会計及び特別会計の大要であります。後は質問により答えてゆきたい。

一議

長(田村利一) 十分間の休憩をいたしたいかがですか。
異議なし

一議

長(田村利一) 異議ないものと認め十分間休憩する。
休憩 午後二時十五分より二時三十五分

一議

長(田村利一) 再会します

一議

長(田村利一) 唯今の昭和三十三年の一般会計及び特別会計の予算その他の件について質疑及び御意見を伺います。

三番(大久保一郎) 昭和三十三年の予算審議などどのような方法でやってゆくか決められたい。大が議案から二五号議案までは各担当常任委員に付託すると思うので、それら前提条件として審議を進められたい。

四番(瀬古清也) 總括的な質問が先議すべきと考える。

一議

長(田村利一) 二五号議案より二五号議案までは各常任委員会で審議願うこととし、その前に一応總括^債向をすることと異議ありませんか。
異議なしの声多し

一議

長(田村利一) 異議ないものと認め最初に總括質問にはなります。

一才十一番（田村利一）学校関係の予算で本日聞かるところによると、基地の特別交付金が予定額より多く交付になり、これをオニ小学校の増築分に繰越すと言うが、この場合において各学校の年次別の考えが変つてくさと思うが、年次別の計画はどのようなになるか伺いたい。

町 長（秋山誠二）順序について考えられることは先ず分校は校地の拡張を三十二年度予算でやり、三十三年度五百万円で大教室を増築し独立校にもつてゆきたい。オニ小學校は一応大教室も建築中であり、整地の問題について三十七年度の間に平らにしたい。土手の面とも考え併せ基地からはブルドーザーを借りてやってゆきたい。中学校の増築はまだ先にもつていつてもよいので、今年には修理と塗装をやりたいと考えている。

一才十一番（山下幸三）三十三年度の自治庁の方針で特別会計は独立採算であるべきであり、繰出金は減らせと言うが、内容はどの程度限定しているのか説明願いたい。

一総務課長（大野忠一）自治庁の指示項目を朗読

繰出金については厳べつし、收支の均衡をはかる旨を朗読

一町 長（秋山誠二）自治庁からは特別会計は独立採算制でやるべき旨の指示をうけている。

一才十一番（田村祐一）公民館の建設について昨年度までの方針を変えて、郡の自治会館と言う線でごくとう著眼はよいと思うので努力をお願いしたい。

次に郷土誌の編集について、我々は土地の出身者でありながら、当町の沿革がわからない。なるべく早く完成され一冊の本としてまとめられたい。又予算面に五、六、七、八の賞金が計上されているが、いつ頃やるのか伺いたい。

町 長（秋山誠二）公民館の敷地については総務委員会での位の面積が必要なのか、他の実際の所を視察して検討してみた。

練馬区についてこれは相当大きなもので人口二万人を基調としたもので相当大きなものである。赤羽のものは中位で手狭な割合によくまとまっており、敷地内には保育園もある、杉並区のものには図書館と同じ所に別館にあり、総括して公民館としている。いずれにしても活動するには相当の敷地が必要で、少くとも五、六、七、八坪は必要である。

このような考案より、こゝで本格的な交渉の段階には入りたいと思う。

次に郷土誌については最初五ヶ年一位と目標に調査を進めてきたが三ヶ年一位のもの一つにまとめたのと考えている。

オ十一番(田村祐一) 敷地の予算一〇〇万坪は三十三年度に持越すのか、或はその便途方法について伺いたい。

一町 長(秋山誠一) 三十三年度の一〇〇万坪は三十三年の分と合せて支出すること、なる。話が早くつけば出納閉鎖期の五月三十一日に間に合うので三十二年度で整理するが、できなかった場合は事業繰越となる。

オ十番(森田幸雄) 三十三年度も基地交付金はもうえるか、もうえるならその考のもとに三十三年度予算を編成したか。

又町の発展に伴って地価が上っているが用地買収費はそれによる適正な価額を考えて計上してあるか。

一町 長(秋山誠一) 基地交付金については一応三十三年度予算に組んでよいかどうか、都に確めるところまだ計上しないようにと云うので当初予算には計上してない。又道路、学校用地等の予算については従来の方で予定したが、具体的なものは、總務及び建設の委員会に検討し、載う、一応従来の方で組んである。

オ十番(森田幸雄) 基地交付金は町が基地より受ける犠牲に対する交付金であると思うので合理的な案のないよう考慮されたい。

オ十一番(田村祐一) 基地関係交付金は頭初三億と云うことであつたが結局五億円になつたが、三十三年度は十億円と云うことである。それによると三十三年度は福生町の場合でも二倍はなると思う。

一町 長(秋山誠一) 日本全国の軍の施設を固定資産税の方式で計算すると三二億円となる。本年度は十億円にするか云う言質をとつてあるが、大抵自分で米軍撤退の関係から八億円あれば十億円に必的するかと云うことであつた。このうち二割は財政需用に充て、入割は施設物の割合で交付される。但し、直接飛行場の甲に供する格納庫等は除外されて計算されている。三十三年度の交付額はだいぶ、倍位となると思う。

オ九番(石川信義) 三十三年度追加予算の見通しはどうか。

一町 長(秋山誠一) 三十三年度の収入関係で町税については、従来からの実績に基いて収入の線も確実なものだ、押えて計上してある。その他の収入についてもそれ、の、実績によって計上した。補助金については学校関係は正確にならないが、都市計

画については若干の補助金はあると思われる。起債の関係では特別会計においてと場の冷蔵庫を何とかしたい。水道、汚物処理場の関係は難しいと思う。それ等かはつきりしたり追加計上したい。最終的段階では基地関係の交付金があると思う。

土番(山下幸三) 青少年問題協議会の現在までの成果について説明願いたい。

町長(秋山誠一) 青少年問題協議会の成果についてどの程度実績が挙げたかは批評することが難しいが、やっていることを申し上げると、この協議会は西多摩郡八ヶ町村の協同事業となっており、福生町に事務所を置いてある。全費については各町村より一百万平均出し、後は都から二百万位の補助がきている。この性格は協議会自体が事業を行うのではなく、各単位体がやるように仕向ける役割を担っている。構成は町村長、警察、教育関係者、青年団、婦人公等、理事会を組織しており、その下に委員会、幹事会があって、幹事会の線では企画がなされ、あり、これを町村に流している。又映画も持廻りを行っている。

昨年は中学校の生徒を対象に社会に巣立つ生徒の激励会等も催している。又小学校の児童には夏休みを利用して子供会の企画等も行っている。これ等が

どの位の成果を挙げたかは具体的にわかっていない。

一才土番(山下幸三) 事務的な協議会のみを行なわれ、実際について何も行なわれていないのではないか。青年団の育成についても、もっと積極的に努める必要がある。補助金の三百万も増額して、戴きたい。厚生委員会においても何分の市審議を願いたい。

一才四番(瀬古清生) 土木予算について私の希望していた額は二、三百万も計上して、戴きたいと云うことで申上げてあった。本予算を細かく分積してみると我々が希望する工事量はとても考えられない。

基地交付金についてと一方のみを考えているようであるが、土木費についても出直した者でやってもらいたい。

次に汚物処理場の解決策についても一百万円足りず、予算では現段階の処置は不可能である。少なくとも三、四百万円は必要である。当局も頭痛の種と思うが、直しく戴きたい。

次は観光協会の問題であるが、これももう少し考えて戴きたい。一年も全過しているのに一面の役員会も總會も開いていない。この予算を計ても相変らずの予算

である。これにっりても出直して戴きたい。

一町 長(秋山誠一) 未償にっりて少から出直して三〇〇〇万円位を計上せよと云うことであるが、總体の全償の關係からそのようにもゆかない。昨年度に比べ実質的には考慮したつもりであります。都市計画の關係にっりては補助金くるので、この予算には組んでなきが、交付になれば増額されるわけで昨年度より稍充實した予算を組んだつもりです。

活物処理場にっりては起債の許可をもらいたいと考え行政部に行っているが、行政部では近隣町村と共同で大きなものを造ったかどうかと云っており、他の町村ではまだ必要性にかられていないので相談にはのるまいと云うと云うか出さない。起債が許可になれば、例えば三〇〇万円許可になれば三〇〇万円のものができる。次に觀光事業費の關係では前年の八五〇〇円が九〇、〇〇〇円と僅かながら増えている。然らば事業面でどう云うこともあればよいかと云うと施設等のことも考えられるが、それの全償は組まれている。具體的な施設ははっきりしていないので、運営費程度を見積って予算に計上した次第であります。

一才四番(瀬古清盛) こんな事は下水もできない。今まで工事の關係では地元か

なことである。町長は青少年問題協議会長でもあり、本予算の中にそれ等を取入れて充分な補助りができるような計画をたてられたい。

一町 長(秋山誠一) 云々まわしが下手であるが、青年団の事業にっりてはこの事業なら補助金を出すというふうに行う事業により補助するので、唯然と金を出すというふうなことはできない。従って町が当然やるべきではないような事業にっりては補助金を出す。

一才上番(山下幸三) 今まで補助金が出ないため青年団としても計画が踏切れない点もあったと思う。町長としても指示方策を與えてやる必要がある。

一町 長(秋山誠一) 昨年度に一回青年団と会合し、具體的な計画を立ててきてくれという話をした。持ってきた計画がよいものである。追加予算でも出さうと考えていた。青年団としては従来の考方を踏襲してやっている。

一議 長(田村利一) ここで十分休憩したいが、要議なき。

一議 長(田村利一) 要議なきので休憩する。

休憩 午後四時二十分〜午後四時三十分

一議 長(田村利一) 再開いたします。 尚會議は、午後五時以降も引續いて行います。

一議 長(田村利一) 質問を讀めるか或は打切るかお諮りする。
質問読行の声多数あり

一議 長(田村利一) それでは質問を讀めます。

一オ十三番(並木 秀) 町の振興策について考え方を伺いたい。

卒直に云うと当町の商店街等の産業面から今後の見通しについて、特に最近赤線街の灯も消えかっている状態で又更にハウスの建築のストップ状態から考え合せ、当町がそれ等の属後退するとは考えられないが町の産業面に対する今後の見通しにつき考え方を伺いたい。

一町 長(秋山誠一) 町の産業関係はどうなっているか、町の発展の見通しはどうかと云う質問であるが、当町は硬田基地に附随して発展してきたのである。デリケートな問題である。商店街に力がかつてくれれば他町村から客

でない仕事ができなかったかこのような考えは一日も早く改めてもらいたい。

そうゆう意味では基地交付金その面に使うことが本質ではないかと思う。全面的にそうゆう面に使わなければきれいな町造りはできない。全議員とも同じ念願であると思う。

観光事業についても町長はもっと積極的であるべきである。青年団体についても先程十一番議員の発言されたように育成する為に補助金を考慮願いたい。

一町 長(秋山誠一) 土木費、汚物処理場、観光事業費等については先程御答へしました。具体的なものがござたらやってみよう。

青年団については、また団長も決っていないようであるが、町がこいうゆう団体に協力してゆく上においても自主的なもので進めてゆかなくてはならない。青年団としても意見の交換が活発にできるように社会教養と云う大きな線でご世話をしてみたいと考えている。

一オ二番(渡井明) 関連質問であるが土木費について本年度は改修の関係がセロ万円組まれ昨年より五万五円増えているが果してこれだけで町道がよくなるかどうか疑問である。又借金の日額で他の関係では上っているが土木費に

ては下つてゐるこれはどうゆうわけか。

基地関係の交付金で学校建築に使うことについて異存はないが、他の面でも幾分融通されるよう望む。

教育費の食糧費関係が昨年より相当多くなつてゐるが何故か。

一町 長(秋山誠一) 町道の補修費セツト丹は充分でないか、水道関係の方に道路復旧費があるのでこれを使用し、尚予算面で額は少いが奮発したつもりである。

債金については夫村人夫も使用するに付て毎日五五人の割当があり、御指適の債金はこの人夫の仕事をする上において測量等もやるので臨時に雇うこれ等のものの債金である。

次に各学校の食糧費の増額については、昨年度の途中から追加予算とした学校職員、宿直の贈賞である。これは都より交付されるものと一旦町会計に受入れてから支出するものであります。

一オナニ番(山下幸三) 町長の説明を聞いてゐると無循と感ずるものであるが、青年団に付しても育成は必要だが補助金は出せないという。これは誠に残念

を引き入れる等発展が考えられるがとにかく福生町に行けば商売になると云われて建築面或は基地に関係する商売は目立ってきておりました。然し一般的には沈滞期にはゐるとそれ／＼競走は、グシク営業も近く困難になる時期がある。その爲に町の全般がよくなるように考えなくてはならぬので大きな面については専向家、或は実際に仕事に従事してゐる人達と相談して手を打つてゆくべきである。

又農業に付しては商店が發展するに従ひ土地が狭くなり、難しくなるか、むしろ都市計画と同時に明るい農村の建設を考えてゐるようである。この打解策としては農地を畠としてだけ使用することではなく、その他の工夫とする等農業委員会或は農業団体等と詰合ひ研究していったらうと考えてゐる。

一オナニ番(並木 秀) 中々一口では云ひ切れない問題であり難しいが、本日基地の交付金のニュースも入り、その使途に付て四番議員より別な考え方もあると聞いた。又教育優先と云う考方に対する話も出てゐるのであるがこれ等を調査して載せたいと云う感想をもつてゐる。

私の云いたい事は産業の開発による町の発展と云うことに於いて特に要望する次第である。

一才十四番(高橋彦中) 当町の発展に關しては税金面から考えても転入人口に關係があると思うので転入の状況を知らされたい。

一町 長(秋山誠一) 今調べたものがないので次のときに報告する。

一才九番(石川信義) 現在の分校にあつた六教室造り独立校にもつてゆく云うがこの場合教室数と生徒数のバランスはとれているのか又学区の問題はどうか。

一町 長(秋山誠一) 現在十才学区と云う線が施設を急いでいる。従つてどうすれば学区にはまるかと云う点で各部落別の児童数が調べてあるので云う云つた段階に入つたときに考えてゆきたい。

一才十一番(山下幸三) 町予算の年次別計画を造るようにと云つたが出来止つていゝるが今後こう云つた總予算に対する比率とどの程度のパーセントに引上げるか年次別計画表を提出させれば疑惑をもつた質問はなくなると思う。

一町 長(秋山誠一) 年次的に事業を進めることは大切であり、学校関係については自然増の調査は進めてみるが社会的関係の増はつかぬ得ないのでどの程度の増

加の場合どうなるかは研究中である。

又都市計画に於いても何年度にどのようなことをするかと云う点を近いうちに決めて今後の見通しをつけたい。

一才十八番(村尾権吉) 本予算に於いては自治庁の指示によって編成したと云うが御承知の通り、やりたいことは山積してあり、才四番議院の意見はもつともである。厚生関係でその通りである。然し不満はありましようが教育優先と云うことから教育面にも御考慮願いたい。

一才六番(米泉 薫) 再々お願ひしてゐるが目留のつかない問題で八町内町営住宅の崖くずれの所、これは本年にはり度々申上げたが、助役はこれを買上げると云つてゐたが本予算に計上してない。どう処置するの。

とにかく買上げの具合が悪いなり、工事をしてはならない。今度は、はつきりしたことを伺いたい。

一助 役(川澄金吉) この問題に於いては先般本委員会でも現地をみて、買上げた方がよい。又は一部を買上げた方がよい。又買った場合町営住宅の敷地とするか、色々審議したが結論が出ていない。買上げる場合は追加予算で処置したい。